



のう じ でん そう
農 時 電 送

J A新はこだて若松支店、J Aきたひやま、J A今金町
 檜山農業改良普及センター檜山北部支所 TEL 84-5514

秋まき小麦 起生期追肥は生育を見て実施！

本年、小麦の起生期茎数は例年と比べて多くなっています（表1）。越冬状態は概ね良好で、病気は一部で発生している状況です。また、融雪は平年よりやや遅い経過にあります。

小麦の生育状況を見て追肥を行ってください。

過繁茂（茎数1,300本/m²以上）の小麦は、起生期追肥を控え、幼穂形成期近くより追肥を開始して下さい（葉色が薄くなってきたり、冬損している場合はただちに追肥して下さい）。

表1 参考：令和4年春の小麦生育状況（令和4年4月8～13日調査）

地区	畝幅(cm)	茎数(本/m ²)	草丈(cm)	備考
JA今金地域	12.5～30.0	1943	12.1	6ほ場平均
JAきたひや地域	12.5～30.0	1825	13.7	5ほ場平均
JA新はこだて若松基幹支店地域	12.5～18.0	2243	12.8	2ほ場平均

☆ 本年のきたほなみの追肥体系例

起生期の茎数 (m ² あたり本数)		800本以下	800～1,300本	1,300本以上
施肥 窒素 量	起生期	4～6 kg/10a 硫安 約30kg	2～4 kg/10a 硫安 約20kg 地力、前作、は種量に応じて調整する。	0～2 kg/10a 硫安 約10kg
	幼形期	2～4 kg/10a	2～4 kg/10a	2～4 kg/10a
	止葉期	4 kg/10a	4 kg/10a	4 kg/10a

☆ 起生期追肥のポイント

- ① ほ場の茎数を確認し、茎数に応じた追肥を行うこと
- ② 停滞水のあるほ場は、速やかに排水対策を行うこと
- ③ 根浮きや、茎数が異常に多い場合は、ローラーでの鎮圧も行うこと
- ④ 幼穂形成期追肥時も生育をみて追肥量を加減しましょう。

※ 茎数の数え方がわからない場合は関係機関にご相談下さい。

☆倒伏軽減に関する情報

茎数が多すぎると、倒伏の危険性が高まります。倒伏の危険性が高いほ場では倒伏軽減剤の施用を検討しましょう。

農薬名	使用時期	薬量または倍率	水量	使用回数
サイコセルPRO	6葉期前後 (草丈30~40cm)	春小麦： 150ml/10a	100L/10a	1回
	幼穂形成期	秋小麦： 150~200ml/10a		2回以内 (幼形期1回以内、 出穂前1回以内)
	出穂前20~10日 (草丈40~60cm)	秋小麦： 200~300ml/10a		
エスレル10	止葉期~出穂始期	春小麦： 300~500倍 秋小麦：	100L/10a	1回
	出穂始期	春小麦： 300~1000倍		
カルタイム フロアブル	止葉期~出穂始期 (出穂5日前まで)	春小麦： 150ml/10a 秋小麦： 150~200ml/10a	100L/10a	1回

☆間作アカクローバでダイズシストセンチュウ対策

秋まき小麦にアカクローバを間作することにより、ダイズシストセンチュウが約7割減少します。

は種は起生期の追肥と同時に行います。秋まき小麦収穫後は、必ず麦稈を搬出し、アカクローバの生育量を確保しましょう。

10aあたりは種量	3 kg
10aあたり施肥量	リン酸 4 kgを起生期追肥に加える (熔燐20kg/10a程度)

※クリムソクローバの秋まき小麦間作はできません！！

○●安全第一で農作業を行いましょー！！●○